

開催  
レポート

第4回 ささやかだけど

“キラッ”と輝く

地域の取り組み

令和3年12月4日開催  
@庄原市ふれあいセンター  
コパリホール



生活支援体制整備事業は、介護保険制度に位置づけられた、福祉の地域づくりを進める事業で、庄原市では平成28年度から実施しています。

実践報告会は、この事業において、各地域で取り組まれている活動を紹介し合うことで、活動の大切さの再確認と新たな活動につながる場となることをめざして、平成30年度に初めて実施し、この度4度目の開催となりました。

### プログラム

- 13:30 開会・あいさつ
- 13:45 オリエンテーション「この事業の背景・目的について」
- 13:55 事例報告① 東自治振興区協議体 「社会福祉部会」
- 14:25 事例報告② 久代自治振興区協議体「元気づくり部会」
- 14:55 事例報告③ 比和地域協議体「あんしんづくり会議」
- 15:30 閉会

### 実践報告会のコンセプト

「生活感」「手づくり感」「地元感」

この3つが、実践報告会のコンセプトです。

これらには、「すごいことでなくて良いから、身近なところでちょっと輝いている取り組みの積み重ねを大事にしよう」「派手じゃないけれど良いものをつくっていこう」という思いがこめられており、第1回から続くコンセプトになっています。

- 市内の事例にこだわり、市内の地域同士がお互いに共感できる会にする。
- 先進的で完成された事例ではなく、取り組みの途上でも良いので、“キラッ”と輝くような大切なポイントが見える事例を取り上げる。
- 報告を聞いた人たちが、「自分たちにもできる」と前向きな気持ちになれる。

“普段の暮らしの中で、地域や身近な人のことを想う気持ちが少しずつ形になってきている。そんな取り組み報告を聴くことで、それぞれの地域の取り組みが、また一歩前進する”そんな会を目指して開催しました。

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策のため、1自治振興区あたり3人の定員を設け、事前申込制としました。当日は、席の間隔を広げ、マスク着用をお願いし、報告時間を短くするなどの対策を取りました。



# 実践報告の進行役

今年度は、司会進行役に賀島和弥さん、ファシリテーターは、第1回から引き続いて奥田久美子さん、このお二人にお願いしました。

賀島さんは初めての司会進行でしたが、スムーズに進行をしていただき、奥田さんは質疑や意見交換を交え、全体として事例を深めたり、お互いにやる気や元気が得られたりするような時間にいただきました。

## 司会進行

賀島 和弥 さん



庄原市社会福祉協議会  
生活支援  
コーディネーター  
(第2層)

メインの進行役です！

## ファシリテーター

奥田 久美子 さん



庄原市社会福祉協議会  
生活支援  
コーディネーター  
(第2層統括)

頼れるリーダーです！

## 導入 『この事業の背景、目的について』

- 全国的に少子高齢・人口減少社会化が進行。労働力が不足し、社会保障財源はひっ迫する。医療、介護サービスだけでは誰もが住み慣れた地域で一生を暮らすことが難しくなっている。⇒それを補うのが、地域での集まり場などによる介護予防活動とそこから生まれるちょっとした支え合い。そういう自助・互助を進めていきたい。

そんな地域の活動を推進する事業が ➡ **庄原市生活支援体制整備事業**

生活支援体制整備事業とは

**住民参画**による“暮らしやすい地域づくり活動”を進める事業。

この事業で出てくる用語

**協議体** ・ **話し合い** ・ **活動の場**。

地域課題を話し合い、地域だからできることを形にする。

**生活支援コーディネーター** ・ **つなぎ役**。

話し合いの場を作ったり、情報提供したり、地域の資源探しを手伝ったり、ニーズ(困り事)と応援者をつないだりする。

生活支援体制整備事業は、主に自助・互助の部分を担当する事業です！

この事業の最大のテーマは

**「地域に暮らしやすい人同士の支え合いによる 暮らしやすい地域づくりを進めること」**

では、暮らしやすい地域づくり...「ここでずっと暮らしたい」そんな思いはどういったことから生まれるのでしょうか？



それは、地域の“雰囲気”と“ちょっとした支え合い活動”から生まれるのではないのでしょうか。

**『住みやすい地域は、誰かがつくってくれるのではなく、自分達で、お互いでつくるもの！』**

コロナ禍の今、田舎は密な環境が少なく、感染リスクも少ない。田舎の良さ、庄原の良さを活かし、皆で工夫しながら、地域でつながりを保っていきましょう。

今が、体制整備事業の見せ所ではないのでしょうか！！

### ★ “地域包括ケア”を表す植木鉢図★



「<地域包括ケア研究会>地域包括ケアシステムと地域マネジメント」掲載図に、庄原市で花とじょうろを加えたもの

## ～ここからは事例報告の紹介です～

報告

①

### 東自治振興区協議体「社会福祉部会」 『強い絆と交流による元気な地域づくり』

東自治振興区事務局長 宇山 茂之 さん

+ 生活支援コーディネーター 二上 明さん

#### 発表要旨

##### ○振興区の目標

『強い絆と交流による元気な地域づくり』を推進するため5つの目標を立て、元気な地域づくりを目指している。

- ①地域で安全・安心に暮らせるまち
- ②地域で楽しく豊かに暮らせるまち
- ③地域産業が盛んなまち
- ④定住やUターンしたくなるまち
- ⑤環境にやさしく美しいまち

##### ○東地区の地域包括ケアシステムのための取り組み

1) おまかせネット東【支え合い活動】※令和3年5月から開始。  
高齢者等が安心して暮らせる環境を整えるため、日常生活における軽易な（草刈り、墓掃除、ゴミ出し）作業を支援。

2) ふれあいサロン事業【集まりの場づくり】

誰もが気軽に集まれ、寂しさを解消し、困りごとを相談できる場。

3) おたがいさまネット事業【見守りの仕組み】

見守り対象を地域で確認し、住民で緩やかに見守る。



おたがいさまネット東：墓掃除



おたがいさまネット東：草刈り

##### ○「自主防災会」の設立

高齢者の避難などで自主的に防災活動を行う必要がある。14の自治会において「自主防災会」の設立を地域の実情に合った形で進めている。

- ①防災マップの作成、②街歩き危険個所の発見、③防災研修会の開催など

現在8自治会で自主防災会が設立済み。

これからのカタチは… 「おたがいさまネット」と「自主防災会」の連携をめざす！

**事業の連携と民生委員、一人暮らし相談員も交えて、住民にとって一番良い形を模索していく。**

##### ○協議体の再編成

地域の情報や困りごとが入ってこない、住民を巻き込んだ活動になっていないことが課題だった。自治振興区の社会福祉部としての活動だったが、今年3月に再編成し、14地域の自治会長や福祉関係者が加入したことで、住民の情報が入りやすくなり、住民への周知もスムーズになった。

##### ○今後協議体で進めたいこと

①生活支援事業、②サロン事業、③見守り事業、④自主防災事業、これらの事業を振興区の中だけでなく、各団体や住民に周知することで、**住民主体による福祉活動の推進になるように「協議体」を進めていきたい。**

##### ○生活支援コーディネーターより

- ・「サロン活動」「おたがいさまネット」「生活支援事業」の3本柱を立てることができ、少しずつ東地区版の地域包括ケアシステムが構築できつつある。
- ・これまででは、関係者だけが関り、住民への周知が不足しているなど感じていた。今後、東の広報誌や座談会で活動を広めていき、住民自らの活動となるように進めていきたい。
- ・協議体のメンバーは自治振興区の福祉部員を主体としており、地域の情報が届かないことが課題であったが、令和3年3月のメンバー再編成で全地区の自治会長、民生児童委員、高齢者一人暮らし巡回相談員が加わり、情報の伝達がスムーズになった。

#### 会場との意見交換

##### ○質疑

Q：おまかせネットの運営資金はどのようにしているか。

A：草刈りを例にすると1人当たり1時間1,000円としており、これを運営資金に充てている。2人体制で2時間行うので、最大4,000円位になる。支援者の移動燃料代はこの中に含まれる。支え合いをテーマにやっているが、今後このような支援者の負担となる部分も改善していきたいと考えている。なお、支援時に係る光熱水費は利用者の実費としている。





# 久代自治振興区協議体「元気づくり部会」

報告

②

『久代に暮らし、「よかった」と思える地域づくりをめざして！』

～日頃から顔を合わせて、“なじみの関係”をつくることが何よりも大事！～

久代自治振興区事務局長 藤井 皇造 さん

+ 生活支援コーディネーター 半瀬 美恵子 さん

## 発表要旨

### ○久代地域のスローガン

『久代に暮らし、「よかった」と思える地域づくりをめざして！』を実現するためには、日頃から顔をあわせて、“なじみの関係”をつくることが何よりも大事と考えており、命を守るため、自主防災の活動を通して、地域の皆が繋がる取り組みを進めている。



### ○これまでの取り組み

平成 23 年度に 3 自治会が合併し、久代自治振興区が誕生した。その後、地域住民から自主防災事業の取り組み要望が多く、全世帯の住宅裏調査とため池調査を行った。

平成 27 年には久代自主防災会を設立し、調査結果を 3 自治会（支部）に配布。また、住宅別避難図を各世帯へ配布した。防災訓練も毎年度実施している。

平成 29 年度には振興区の専門部を整理統合し、協議体「元気づくり部会」を発足。集まり場づくりに取り組んでいる。この元気づくり部会において、毎年度「自主防災会議」や「久代福祉連絡会」を開催し、課題と解決方法の協議をしている。

### ○日頃からの地域のつながりが大事！

平成 29 年度、独居高齢者が死後数日たって発見。これをきっかけに、日頃からの地域のつながりが重要であることを再認識。元気づくり部会を中心として、福祉活動の充実に取り組んだ。

また、各支部では福寿草祭りやイルミネーション整備、桜の植樹保全活動などを通して、人と人が繋がる取り組みを実施。



集まり場づくり：えごま栽培



東支部：イルミネーション整備

**日頃から顔を合わせていることが、いざという時、お互いの声掛けにつながる！！**

### ○これから取り組んでいくこと

- ① 世代間交流を増やし、人と人が繋がり、ほっとかない「ごきんじょ互近助」での「さりげない見守り」を続ける。
- ② 防災意識を高めることや、話し合いの場をもって、地域の困りごとを解決する。  
➡ **久代みんなが、自分ごととして考え、行動することが「大きな力」になり、命を守ることになる。**

### ○生活支援コーディネーターより

- ・平成 25 年度から自主防災に取り組み、住宅別避難図と要支援者台帳ができた。この取り組みが、8 年経った今でも地域の人の安心と安全につながっている。
- ・地域づくりには「日頃から顔を合わせ、なじみの関係をつくる」これが大切。集まる機会を増やし、普段からつながることで、いざという時に声掛けができる。
- ・コーディネーターとして、今後はみんなで話し合って、できることがコツコツと前に進んでいけるように関わっていきたい。焦らず、諦めずに、そうしていけば何かが見えてくると信じています。

### ○質疑（ファシリテーターから）

Q：防災や集まり場づくりなどの取り組みを自分ごとにしてもらうためどんな工夫をされたか。

A：避難図作成時の事前調査で自宅裏を調査する際には、住民にも一緒に参加してもらった。それぞれ皆さんが、家の状況、地域の状況を知ったことで、この問題は地域全体で考えなくてはならないという気持ちになったのだと思う。

### 会場との意見交換



# 比和地域協議体「あんしんづくり会議」

## 報告

③

## 『合言葉は“比和まるごと家族”』

～「家族のように支え合える町」を目指した比和地域のチーム体制と取り組み～

自治振興区長 若林 隆志 さん

+ 生活支援コーディネーター 周藤 美佳 さん

## 発表要旨

### ○比和協議体「あんしんづくり会議」の結成

平成29年5月、次のことを目的に「あんしんづくり会議」を結成しました。

1. 地域課題の具体的な対応策を考える。
2. 今ある社会資源を把握して「見える化」する。
3. 必要な社会資源をつくる。

- 比和の誰もが住み慣れた地域で暮らせるために、必要な生活支援体制の充実に取り組む。
- 地域のあらゆるネットワークと協働する。



### ○協議体としての活動の始まり

始まりは1件の相談でした。

「診療所からバス乗り場まで歩くのがしんどい。かがんで歩くと前が見えないので、車が怖い。」

協議体結成準備会でこの問題を取り上げた。その頃はまだ、協議体の意義が理解できていなかった。ここから、課題解決のため3つの課題を検討した。

- 1) 診療所からバス停まで一気に歩くのは遠い。  
⇒昔あった映画館の椅子（ベンチ）を再利用し、空き家前などに設置、休憩所を作った。
- 2) 社協に押し車が2台あるが、数が足りない。  
⇒地域の方から、使わなくなったものを寄付してもらい、5台になった。
- 3) 押し車をどこに置き、誰が戻すのか。  
⇒待合室のある社協前バス停と診療所付近の空き家前に置くことを交渉した。実際に設置している押し車  
⇒通所介護施設に通うため朝夕行き来している住民のYさんに、行き帰りのついでに押し車を戻してもらうよう依頼。今では「これは私の仕事」と、Yさんのやりがいになっている。



今では、「バス停から押し車を押して診療所へ通う」を運動として、ケアプランに組み込んでいたり、町で用事をする皆さんの交通資源になっていたり活躍している。

この取り組みから、協議体は地域課題を皆で話し合い、皆でできることを考える場ということが分かった。

### ○これからの取り組み

集まり場の支援をしていきたい。「行ってみたいけど、どんなことをしているところか分からないので集まり場に行かない」という人がいる。情報を集めて発信し、地域の方の外出機会や集まって話ができるきっかけづくりとし、集まりの場を盛り上げていきたいと思っている。

これからも、比和地域まるごと家族のように、支え合える地域づくりを推進したい。

### ○生活支援コーディネーターより

- ・あんしんづくり会議ではメンバーから意見がどんどん出て、「まあ、できるところからやってみようや」という行動力があつたことが活動につながった。
- ・あんしんづくり会議から出てくる人材や、地域の資源は地域の人でなければ分からないことばかりで、マンパワーに限られる中で、地域のネットワークや関係機関の連携は不可欠。
- ・相談しやすい環境や相談できなくても地域での話の中からつながり、解決にいたる仕組みづくりが必要。比和の皆さんの「ふだんのくらしのしあわせ」が続くよう、あんしんづくり会議だからできることを地域の皆さんと一緒に考えていきます。

### ○質疑（ファシリテーターから）

Q：協議体を進める中で、苦労と上手くいったことは何か。

A：楽しくできたのでそこまで苦ではなかった。強いて言えば、押し車の件は置き場所である空き家の所有者を探すのに苦労しました。比和の協議体のメンバーはみんな仲がとても良い。協議の前にはまず、雑談が始まり、そこからざっくばらんなアイデアが出る。わいわいがやがや楽しくすることが、会議を進めるコツ。

### ○感想・応援コメント

表題から「比和まるごと家族」とあるように、比和地域は暖かいなど。これが福祉の原点と感じた。取り組みに本当に圧倒された。

## 会場との意見交換





# 活動成果物の展示コーナー

各地域の活動の中でできた成果物を集めて、会場内で展示しました。  
9地域の出展があり、地域の便利帳、活動紹介ポスターなど様々な成果物が集まりました！

## 西城自治振興区協議体 「西城暮らしと安心の会」

## 庄原自治振興区協議体 「福祉団体連携会議」



### 西城自治振興区協議体 「西城暮らしと安心の会」

- ①いつでも備えを！  
私たちができる避難のための13か条  
避難をする際に大切なことを13のポイントにまとめたもの。
- ②災害が起きた時の私の、我が家の行動シート  
いざという時にどう動くか、家族で話ができるようになっていく記入式シート。
- ③『詐欺からあなたを守る』相談相手記入シート  
困った時に相談ができる人を、事前に考えておくためのカード。

### 庄原自治振興区協議体 「福祉団体連携会議」

- ④「緊急時の対応マニュアル」  
災害等における、緊急時の避難対応等を図示したもの。
- ⑤地域（自治会）における「さりげない見守り活動」  
さりげない見守り活動のための地域（自治会）で取り組むこと（互助）、自分自身で取り組むこと（自助）をまとめたもの。
- ⑥自治振興区「高齢者等見守りネットワーク」  
見守り活動時に、安否不明等の異変を感じた際の流れを示したもの。





久代自治振興区協議体  
「元気づくり部会」



久代自治振興区協議体  
「元気づくり部会」

⑦住宅別避難図

住宅毎の久代東振興会館までの避難図。災害時の緊急連絡先なども掲載。

⑧援助者台帳

支援が必要な方のリスト。

⑨ため池安全度判定シート

各ため池に点数をつけて安全の度合いを分かりやすくまとめたシート。

帝釈自治振興区協議体  
「社会福祉部会」



帝釈自治振興区協議体  
「社会福祉部会」

⑩帝釈版：地域包括ケアシステムの実現に向けての活動紹介

●帝釈ケアネット連絡会

様々な地域の困りごとの相談窓口。

●帝釈自治振興区声掛け運動

高齢者が孤立せず安心して生活できるよう、さりげなく「見守り・声掛け」を行う取り組み。

●高齢者応援隊

普段の生活のちょっとした困りごとに対する有償ボランティア支援。

総領自治振興区協議体  
「総領さいたらの会」



総領自治振興区協議体  
「総領さいたらの会」

⑪総領さいたらの会の紹介ポスター

日頃の見守り活動を通じて、各自治会から出された困りごとを持ち帰り、総領地域全体の課題として「総領さいたらの会」が発足。安心安全で住みよいまちづくりを目指し、活動中！！

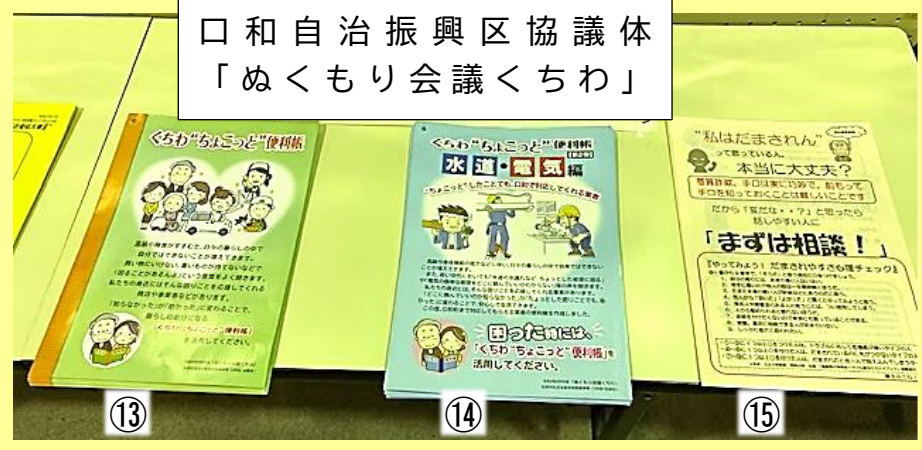
⑫『日々気かけあいこ』

日々の生活の中でできる気に掛け合い、支え合いの取り組みを分かりやすくマニュアル化したもの。



口和自治振興区協議体  
「ぬくもり会議くちわ」

- 口和自治振興区協議体  
「ぬくもり会議くちわ」**
- ⑬くちわ“ちょこっと”便利帳  
町内の食材や日用品の配達が可能なお店、出張理美容ができるお店の一覧表。
  - ⑭くちわ“ちょこっと”便利帳【第2弾】水道・電気編  
水道・電気業者の一覧表。
  - ⑮悪質詐欺啓発チラシ  
詐欺に関する相談先や騙されやすさ心理チェックを掲載した啓発チラシ。



上高自治振興区・下高自治振興区協議体  
「なんずかんずつながる会」

- 上高自治振興区・下高自治振興区協議体  
「なんずかんずつながる会」**
- ⑯『たかのなんずかんず便利帳（第2版）』  
地域住民の生活をちょっと応援してくれる様々な社会資源（お店、生活支援サービス、交通、医療、介護、相談窓口など）を1冊にまとめた冊子。
  - ⑰庄原市高野版 防災マニュアル「身を守り、地域を守る。3つの備え」  
高野地域の安心と安全を守るための備えとして、防災マニュアルを作成。



東自治振興区協議体  
「社会福祉部会」

- 東自治振興区協議体  
「社会福祉部会」**
- ⑱生活実態調査アンケート  
東地区の生活支援事業化のための生活実態アンケートを実施。男女比や年齢構成、困りごとなどを調査しました。
  - ⑲おまかせネット東のチラシ  
生活での困りごとを協力者（地元の人）で解決する支援事業のお知らせチラシ。





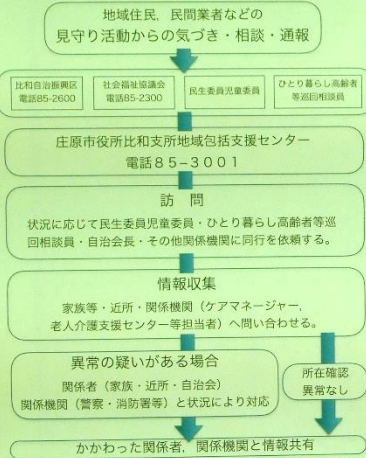
# 比和自治振興区協議体 「あんしんづくり会議」



## 比和まるごと家族

### 「見守りのネットワーク」対応マニュアル

地域住民、民間業者などが、それぞれの役割の中で、相互に連携しながら見守り活動を行うことで、誰もが地域で安心して暮らし続けるしくみです。



20

## 見守る側も、見守られる側も知っておこう 見守りポイント！

「さりげない見守り」の中で「ちょっときになる」ときは、連絡してください。

- ① 立ち話や会話の最中に同じ話を何度もする。
- ② 慣れている所で道に迷っていることがある。
- ③ 妄想があるようだ。
- ④ 以前に比べて服装が変わってきた。  
・服装が乱れてきた。・毎日同じ服を着ている。  
・季節にそぐわない服を着ている。
- ⑤ 身だしなみが乱れてきた。  
・髪の手入れがされていない。匂いが気になる。
- ⑥ 歩く姿が危なっかしい。  
・体調が悪そうだ。
- ⑦ 新聞や郵便物がポストにたまっている。
- ⑧ 夜に部屋の電気がついていない。
- ⑨ 同じ洗濯物が何日も干しっぱなしになっている。
- ⑩ 急に姿を見かけなくなった。

連絡・相談先  
・庄原市役所比和支所地域包括支援センター（電話 85-3001）  
・社会福祉協議会比和地域センター（電話 85-2300 夜間 080-5239-4085）  
・比和自治振興センター（電話 85-2600）  
・地域の民生委員児童委員  
・地域のひとり暮らし高齢者等巡回相談員



## ルールを作って地域で解決 のら猫被害が増えています



放っておけば被害が増えるばかりです

問い合わせ先  
比和支所 85-3001  
自治振興安 85-2600  
社協比和 85-2300

困っています

・ゴミがゴミ箱に落ちて臭気や衛生を害するのを防ぐ  
・のら猫が小屋に棲みついて中を巣にするのを防ぐ  
・家の隅の隅に猫を隠して保護するのを防ぐ  
・猫の鳴き声や吠え声を抑える

地域でできること

・のら猫に餌を与えない。餌を与えると棲みつきやすくなる。  
・のら猫をよせつけない環境を作りましょう。  
・のら猫の糞尿を放っておかぬ。その猫の縄張りになります。ごまかに清掃しましょう。  
・のら猫を家に入れない。よせつけない。戸締りのほか、猫が不快と感じる物を置いたり、まいたりすると効果があります。（猫よけ砂利、コーヒークリ、レモン、みかんの皮、木酢液など薄めたものなどです。）

猫の飼い主さんへお願い

・外での餌を食わせないでください。餌は家の中で与え、のら猫の餌とならないようにしましょう。  
・できるだけ飼い猫の不妊去勢手術をしてください。のら猫が増えないためにご協力をお願いします。  
・猫をできるだけ室内で飼ってください。のら猫が寄り付かなくなります。  
・室内で飼えない場合は、猫が近隣の家庭に迷惑をかけないように餌の管理などの生活管理を行ってください。餌は、餌袋、餌入れ（壊れやすいもの）による被害が増えています。

比和まるごと家族会議とは  
子どもから大人まで、各々が家族のように支え合える比和の地域づくりを目指して、市内各地で11地域で組織した協議体です。主な活動は  
①住み続けたい地域で暮らし続けるために地域課題の対応策を検討  
②地域の及ぶ課題の解決や活動の推進を図ること



21

## 比和自治振興区協議体 「あんしんづくり会議」

### 20 比和まるごと家族 「見守りのネットワーク」対応マニュアル

日常生活でどこに相談すればいいかわかりにくい内容の連絡先をまとめたもの。

### 21 野良猫啓発チラシ「ルールを作って地域で解決 野良猫の被害が増えています」 野良猫被害を減らすために地域でできること、猫の飼い主へのお願い事項や相談連絡先を記載したチラシ。

## 22 全地域共通

### すべての地域（協議体域）でやりきる!!

生活支援コーディネーターにより、庄原市が推進する「見守り活動」「集まり場づくり」「支え合いの活動」の3つの柱をもとに、個別の課題から見えてきた地域の課題解決に向けた取り組みをわかりやすく伝えるためにポスター（22）とDVD（23）を作成しました。

24 庄原市はこれまでの「実践報告会開催レポート」を出展しました。

23

まとめ

司会進行 賀島和弥 さん

ファシリテーター 奥田久美子 さん



- 報告者の地域づくりをもっと進めていきたいという強い思いを感じることができました。私自身その思いを胸にコーディネーターとして、活動していきたいです。
- この報告会も今回を重ね第4回となり、着実に取り組みが進んでいる。
- 庄原市では協議体をそれぞれの地域で、その地域ならではの呼び方にしていることで、少しずつ地域になじんでいっている。
- 取り組みを進めるためには、行政や役員だけでなく、地域に住む住民の方が自分ごととして、自分達の思いで、取り組むことで解決に向かっていく。焦らず、急がず、それぞれの地域の在り方で、進んでいけばよいと思いました。



## ～参加者アンケートから～

大変多くのご感想をいただきました。一部ですが、掲載させていただきます。

### ○実践報告を聴いて

- 防災の取り組みを地域に活用できるように振興区で話し合いたい。地域まるごと取り組みをされているので、私の地域も少しでも取り組むことができればいいと思う。
- 地域毎の団体や住民がバラバラでは何もできない。いかにして連携を作り、関心を持てるかが、地域づくりのポイントとなる。まちづくりには、仲間が和気あいあいになれることが一番のカギだと思う。
- どの報告者もどうやったら住民ごと（自分ごと）にしていけるかをポイントにしていた。少しずつではあっても取り組んでおられることに感激しました。
- どの地域もいろいろアイデアを出して取り組んでおられることに感心した。
- 今後も続けていただきたいです。いい点だけではなく、解決しにくいことの実例、失敗したことも聞きたいです。

### ○展示コーナーを見て

- 総領の”気かけあいこ”のパンフレット。8年前、同様のパンフレットを作りましたが、そろそろ改訂が必要な時期に来ました。参考にしたいと思います。
- 比和⇒野良猫まで対象とされている活動の広さ、小さいことの積み重ねが大事だと思いました。
- どれがいいとかそうでないとかではなく、自分たちで作っていることが「いいな」と思いました。



**この報告会は、今後も継続した開催を目指しています。**

**新たな“キラツ”と光る取り組みの報告と、多くの皆様のご参加をお待ちしています！**

庄原市 生活福祉部 高齢者福祉課 〒727-8501 庄原市中本町一丁目10番1号

TEL : 0824-73-1165

FAX : 0824-75-0245

E-mail [chiikihoukatu@city.shobara.lg.jp](mailto:chiikihoukatu@city.shobara.lg.jp)